

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	407120630		
法人名	社会福祉法人 福岡ケアサービス		
事業所名	グループホーム安養		
所在地	福岡市西区生の松原三丁目13-15 (電話) 092-881-904		
自己評価作成日	令和 3 年 1 月 24 日	評価結果確定日	令和 3 年 3 月 29 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

コロナ禍、掃除・手洗い・消毒を充分に行い感染予防に努めています。ここ6~7年はインフルエンザも発生しておらず、入居者様は健康的に過ごされております。花の見学や食事など季節の外出をする機会が多く通常でも買物に行ったりで楽しみと外での気分転換が日常のような毎日に、入居者様いきいきと生活をされております。職員間は連携が取れておりまた明るくはきはきした表情と返事で清々施設です。現在はコロナ禍、外出は自粛しておりますが、食事やおやつ作りをメインに能力を発揮できる場を設けております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 3 年 2 月 10 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は都市高速道路や公共交通機関へのアクセスがよい、閑静な住宅街の一角に位置し、大きな看板も設置していないため、周りの民家と馴染むよう佇んでいる。社会福祉法人である事業所の母体は、福岡市西区に特別養護老人ホームや、小規模多機能施設等を数か所で運営しており、同一敷地にあるケアハウスとの共有スペースには、家族の宿泊が可能な和室も準備されている。
「その人らしい、本来の姿」を大事にするという事業所の方針は、利用者はもちろん、事業所で働く職員にも向けられており、職員の働きやすさへとつながっている。そのため長く働く職員が多いのも、事業所の特徴である。

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を玄関に掲示し職員がいつでも振り返る事が出来るようにしている。事業所としての理念より入居者に寄り添う形の基本方針として作成しているが見える掲示は行っていない。	事業所独自の理念がなく、法人の理念を事業所の玄関に掲示し、職員は、理念を実践すべく日々の介護に取り組み、いつでも、自身の支援を振り返ることができるようにしている。	法人の理念の元、地域密着型の視点を持ち、利用者に寄り添い、「その人らしさ」を重視した、事業所独自の事業方針の明文化に向けて話し合いをされているとのこと。新たな事業所の方針ができた際には、法人の理念、事業所の方針の実践に向けて、さらに取り組まれることを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で今期の交流は消防訓練や行事への参加・園児交流もすべて中止しとしている。但し12月～道路清掃活動を週1回行うようにした。他、挨拶や立ち話などで交流をはかっている。	2ヶ月に1度、地区の公民館で行われるカフェでは、介護予防の運動や、色々な行事を主体的に行っている。また、近隣の公園を定期的に清掃したり、事業所周辺の道路掃除をしたりと、日々の清掃活動を通して、近隣住民に声をかけたり、かけられたりといった関係を築くことができています。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域カフェにてボランティア活動を通じ、介護予防に付随する体操や介護に関する知識などを実践している。但し今年度は中止となっているため、民生委員の方と個別訪問についての話をを行ったがまだ実施していない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度3月からはクラスタ発生を考え開催は行わず活動状況やお知らせなどを中心に議事録を作成し送付。評価については、前後に説明と結果を配布説明を行っている。	運営推進会議は、2ヶ月に1度開催されており、利用者家族、地域包括支援センター、町内会長、民生委員が参加していたが、コロナ禍の状況で、事業所の活動報告、議事録の送付、また、事業所に対しての意見を聴取するアンケートの郵送へと切り替え対応している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	各種申請について問い合わせを行い指導頂いている。前年度の目標に市町村に活動を知って頂くため広報誌などの発送の手筈は行っている。	市町村へは、運営推進会議への参加要請を行っている。また事業所便りを送付する準備までできているが実践はできていない。	事業所の目標達成計画としていた、市町村との連携も、コロナ禍の時期と重なり、積極的に行うことが困難な状況であるが、新型コロナウイルスが終息にむかえば、市町村が主催する行事や研修等を通して、積極的に連携し、関係を強化されることを期待したい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内に於いて3月に1回身体拘束廃止に向けた取り組みを行っている。現在は勉強会と新人教育が主となっている。また年1～2名の職員を外部研修へ参加させ資料をもとに勉強会を実施。	身体拘束に関しては、法人の年間研修計画や新人研修に研修が位置づけられ、実施されている。集合研修ができない際は、オンラインやDVDによる研修で職員全員が受講している。事業所の玄関はオートロックであるため、昼夜問わず施錠の状態であるが、庭には居室やフロアより自由に出入りすることができる。玄関については、夏場は風通しのため、開けたままのこともあり、その際はセンサーを設置する。	玄関の施錠が当たり前にならないように身体拘束廃止の意図を皆で共有して欲しい。夏場だけの開錠ではなく、工夫した取り組みを期待する。

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修に於いて、年2回虐待に関する研修を開催、職員に学ぶ機会を設け悪い事例などをもとに、虐待防止に取り組んでいる。また不適切ケアについても、互いに注意出来る環境作りに取り組んでいる。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内部で研修会を行ってる。今後は外部研修への参加を行っていく。	権利擁護に関する制度については、利用者が必要になった際に説明するようにしている。権利擁護に関する研修については、法人研修を実施しており、オンライン研修、もしくはDVD研修により、全員が受講できるようになっている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を中心に契約書についても丁寧にわかりやすく説明を行い、疑問などにもあやふやにせず納得いくまで説明を行いトラブルの無いようにしている。改定時は同意書を作成している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来苑時に各職員が日頃の状況を伝えながら要望なども聞き出し報告をおこなっている。運営推進会議でも個別の意見や外部の方又はアンケートなどで意見を伺ったりしているがなかなか返事はない。	利用者や家族の意見や思いは、直接的に聞くこと以外にアンケートを実施したり、一人ひとりに連絡簿という意見交換ノートを作ったりして聞き取っている。外出が出来にくいコロナ禍の現状においては、特に「食」を重視し、利用者から食べたいと声があがった、ケーキやぜんざい、どら焼き、パフェなどのおやつ作りを楽しめるように、レクリエーションに取り入れている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期面談や日頃のコミュニケーションに於いて挙がってきた意見は、場所長～施設長～理事長まで内容に応じソフト面ハード面改善・反映している。今年度は床面など。	管理者、ユニットリーダーによる職員の個別面談の機会が年に2度あり、意見や要望を聞いている。設備や、行事に関する要望を実際に取り入れ、施設のハード面、ソフト面の改善を図っている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課で良い面・悪い面・頑張っていることなど振り返ってもらい面談の中で改善点や伸ばしてほしい点を伝えている。長めの有給休暇でも気兼ねせず取得できるよう互いが協力しあえる環境を作っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	人柄や勤務時間や能力・希望案がえ採用しており年齢や性別は勘案しない。職員は希望も含め適材適所で得意分野が発揮できるよう行っている。	事業所は、年齢や性別で採用条件から排除することではなく、20代から60代の各年齢層の職員が働いており、その多くの職員が、事業所での雇用が5年以上と、働きやすい環境で長期キャリアを形成することにより、能力が発揮できるように配慮されている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	全ての職員や入居者は差別されることは無いよう基本的なことは身に付けており研修も行っている。	法人内研修の年間計画、また新人研修に人権研修が組み込まれており、今年度においては、法人内研修は集合研修をせずに、オンライン研修、DVD研修を実施している。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に法人研修を行っている。新人教育含め経験や能力に応じ丁寧な指導と教育を行っている。外部の研修への参加も増やしている。また教えるだけでなく考えることを一緒にするなど教え方にも工夫を凝らしている。評価制度の導入を検討中		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区の部会や研修・外部研修で交流した方々と横の繋がり作りに情報交換を行ったりしている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知機能や身体面からか入居前に施設に本人が来られることは少ないが、来られた際は声掛けしながらコミュニケーションをとり安心感を持って頂くようにしている。家族から了承頂ければこちらから出向き面談を行うこともある。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	個々に困っている内容も違う為、相談しやすい環境作りからしっかり聞き、適切な支援や助言を行える関係作りに努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学時や問合せのヒヤリングから利用者状態を見極めグループホームだけでなく選択肢の一つとして他のサービスを奨めることもある。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者も職員も対等な人間同士だと考え、介助したり教えることばかりでなく、調理や家事作業などを通し、教えて頂いたり学んだりする場も設けている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	問題点や課題があれば出来る限り家族へ相談し解決するように努めている。あまり支援関与されない家族が居るのも実情としてあり。今後はそういった家族へも働きかけていく。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度は外出することや面会を控えていたせもあり殆ど実施出来ていない。家族も含め関係の深い方中心に2週間に1回程度の報告を電話で行った。	利用者の多くは、もともと同区内に居住されており、通っていたスーパーに買い物に出かけたり、散歩や、道路掃除の際に近隣住民とお話をしたりして、関係の継続を支援している。また隣接するケアハウスからグループホームに移った利用者もあり、行事や図書館を利用する目的で、ケアハウスの施設を活用することで、友人と交流する機会も持つことを継続している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の生活の中どうしても気が合う合わないの問題がある。作業やレクを行う際、席を変えたり職員が入ったりし一人一人が孤立しないように努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去される時・された後も相談や要望にも対応している。他の施設などに入られても必要な情報はしっかりと提供している。		

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	何を・どんなような生活がしたいか？本人へ尋ねる様にし対応している。困難な場合は職員全員が必要としているであろうことを話し考える様にしている。	入居後、暫くは関わりを細目に行い、本人の意向や思いを注視し記録している。職員は情報を共有し馴染みの関係づくりに努め本人が思いを述べやすいように雰囲気づくりされている。意思疎通の困難な方については家族から情報を参考に対応されている。現在、コロナ禍においては外出が思うようにできない分、気分転換ができるよう配慮している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や申込時に生活歴や環境などにつきヒヤリングを行い記録に残し対応。真新しいものでなく、今まで使っていた馴染みの物を持参頂き住み慣れた同じ環境作りに努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者日々の心身の状態を把握し、何が出来るか常に考え可能であれば実践を合わせて実践を行っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	基本3月に1回モニタリング6月にプラン更新を行っているが、必要に応じ月途中の見直しもあり。本人家族へのヒヤリングやミーティングで各意見を取り入れて作成。	本人、家族の意向に対し、計画作成担当者が居室担当職員、訪問看護職員、協力医などの意見をまとめケアプランの作成、説明が行われている。3か月ごとにモニタリングを行い、6ヶ月ごと又は状態の変化に応じてプラン見直しを行っている。利用者の状態に応じて必要な項目を掲げケアプランを作成し、実践している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の他に連絡ノートや受診ノートを作成。受診ノートへは前までの状態や薬・家族への報告など記入し職員間で共有している。介護記録へは、その時の反応良かったことなどを記入。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じニーズに応じた支援を都度検討するように努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事参加や園児交流など交流の場を出来る限り増やすようにしている。訪問理美容でオシャレを楽しんだり、提携病院を指定し急な体調不良にも対応出来るようにしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の要望に応え、その方に合ったかかりつけ医との関係を築けている。状況や対応・薬についてなど必要なアドバイスや相談にも適切に頂いている。	入居後、協力医の往診を受けられる方が大半であるが、馴染みのかかりつけ医を継続される方もいる。入居者ごとに「受診記録・面会記録ノート」があり家族とのやり取りを詳細に記録している。家族が付き添う場合は「受診記録用紙」を渡し連絡を頂くようにしている。また、事業所の福祉車両にて送迎も行っている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診や訪問看護時に利用者の生活の中に起きる様々な症状について相談したりアドバイスを貰い必要であれば入院など連携を取っている。勉強会の開催も行っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には入居者情報を病院側へ速やかに伝える様に努めている。入院中は定期的に訪問や連絡をとり、確認や相談を細やかにし早期の退院が出来るようにしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	全ての家族と終末期希望についての話し合いが出来ている訳ではないが、家族が望み条件がクリア出来る場合は看取りケアを行う体制作りは出来ている。	重度化や終末期については、希望があればできる限り事業所にて受け入れる方針である。協力医や連携している訪問看護の協力もあり体制を構築している。また、職員は年1回程度、研修を受講している。今年度は、訪問看護の職員が講師となって内部研修が行われていた。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人研修に於いて急変時や事故に対応出来る学びの場を設けている。またミーティングでも勉強会を開くこともある。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年数回消防訓練を法人で行っている。地域の方の参加での交流もあり。また災害時はシエルターとしての役割も地域の担当の方と取り決め済。備蓄については3日分を確保	年2回、消防署の立会いのもと敷地内の併設事業所と合同で、消防訓練を実施している。コロナ禍で地域住民の参加はできていないが、資料を配布するなど事業所の防災について理解を得るようにしている。今後、地域の町内会長の参加も予定している。また、地域の避難場所としての役割を担っており、関係を深めている。	
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人として接遇委員会を設置、適切な声掛け方など年数回設け各部署からヒヤリングえいたものを集め、正しい言葉使い作成配布している。	法人全体として接遇委員会の設置があり、そのなかで尊厳ある対応やプライバシーなどについては確認されている。年4回程度委員会が開催され、事業所職員も参加し言葉遣いや態度について検討したり啓発活動を行っている。また、新人教育時、学ぶ機会を設けている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に声掛け対話する中で、何がしたいかなど問いかけ、実践出来るものがあれば取り組むようにしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを把握することに努め関り、意向に沿う支援を行っている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	意思決定が出来る方にも服など選んで頂くのが大切だが中々出来ない。整容については都度整えられるよう支援や介助している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けなど利用者も一緒にして頂いてる。2～3カ月1回、おやつ作りや食事作りなど作る過程も職員と楽しむ工夫をしている。	敷地内に厨房があり調理されたものが配食され、ホーム内で入居者と職員と一緒に盛付けや配膳を行っている。炊飯は事業所で行っている。厨房の管理栄養士により栄養バランスの取れた献立となっており、好みや形態などについても対応されている。菜園でとれた芋を収穫して調理することもあり楽しみとなっている。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせ食事や水分が進まない方には好まれるものを時間をずらして提供したり、上手く行った介助方法など共有し1日の摂取量を考え支援している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は歯磨きの声掛けを行い状態に合わせて支援を行っている。口腔体操を行い誤嚥にも注意している。訪問歯科へも方法についてなど相談しアドバイス頂いている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや本人の仕草などを見て声掛けや誘導を行っている。状態に合わせてショーツを使用して快適に過ごことが出来るよう支援している。	入居後、1週間程度は関わりを細目に行い、排泄つパターンを把握するようにしている。事業所方針として、できる限りトイレでの排泄支援に努められ車椅子用トイレも完備されている。おむつについても最小限に使用を抑えられるよう適宜、見直しが行われている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量や活動量を増やす・低残渣渣食など食事の工夫、薬剤も座薬・液状・錠剤など形状や成分も先生と相談しながら使用		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	希望を伝えられない方が多いため体調や休息に配慮し入浴を行っている。季節行事としてゆず湯や菖蒲湯・バラ風呂などを行っている。現状週2～3回の入浴実施ですが希望があれば入って頂いている。時間については制限はありますが時間外可	毎日、湯舟が張られ入浴できるようになっている。入居者は週3回は午後よりゆっくりと入浴されている。入浴拒否がある場合、タイミングを見計らい声かけしている。季節によってゆず風呂やバラ風呂など実施し楽しみのある入浴になるように工夫がされている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	音・臭い・光に配慮し休息が取れるようにしている。夜間の安眠に繋ぐため日中の活動や日光浴なども考え支援をしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情ファイルや薬のセット時に無い様については確認出来る。変更や新規については受診時に、先生に増減のアドバイスを貰い申し送り・受診ノートで共有。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	服を補正、縫ったりゴム通したり、おやつ作りや食事作りを行い、包丁を使い物を切ったりまぜたりで役割や楽しみに繋げている。天気の良い日はテラスで体操やティータイムの時間を作っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響により企画外出は実施していませんが、制限付きで散歩へ行くなどを行った。。	毎日の生活の中でゴミ出しと一緒に行くなど外の空気に触れるようにしている。また、気分転換のための散歩も毎日行われている。コロナ禍で外食や買い物などは自粛しているがドライブについては月1回、感染対策に留意しながら行われている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	立替金でお金の管理を行っている。自己管理やは難したため、使うや所持するの支援は出来ない。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話できるようにしています。手紙については字の練習も兼ね、促すこともあります。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日清掃を行い、温度湿度に配慮し快適に過ごせるようにしている。季節を感じて頂けるよう一緒に作成した飾りつけをおこなっている。	リビングは庭に面しており適度に光が差し明るい空間となっている。廊下には、入居者が作成した作品が飾られていたり、地域の園児から寄せられたメッセージなどが掲示されていた。日頃より職員は整理整頓に努め、季節によっては飾りつけを行い居心地のよい空間づくりに努めている。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルを離して配置し少人数で落ち着いて過ごせるようにしている。ソファで一人でや気の合った方と過ごせる居場所作りしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や思い出の物を配置したり、家族の写真や孫の作った物などを飾って頂き居心地良い空間になるようにしている。	全室、庭に面した作りとなっている。居室内は備え付けの洗面台、クローゼットがあり介護用ベッドも用意されている。テレビ、使い慣れたタンスなど持込みがされていた。電話を持込されている入居者もあり、本人の必要に応じて対応がされていた。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	カレンダーや時計を置き日時のかくにんができるとともに、入浴・トイレには目印をつけ分かり易くしている。一緒に作成した飾りつけを行い季節感を演出。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
			○	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：30)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）		①ほぼ全ての家族と
			○	②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
			○	④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		①大いに増えている
			○	②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）		①ほぼ全ての職員が
			○	②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が
			○	②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を玄関に掲示している。理念については職員個々のレベルでの理解が難しい。ミーティング他事業計画作成前に吸い上げたことを踏まえ作成し実践に反映するようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設周囲の清掃活動をなどに参加しながら地域の方とコミュニケーションを図り時間の共有をしている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議へ地域の方の参加時に啓蒙活動を行ったり、地域カフェにおいて介護予防体操を主に、生活における注意点などの情報の提供を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、評価前に説明し結果についても個々に配布し説明を行っている。今期はコロナ禍、会の開催はせず活動状況を作成し配布を行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	各種申請時に分からないことあれば指導頂いている。前回の目標に連携の部分から、広報誌や議事録の発送を考えていたが実施には至らず。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議の場で資料をもとに職員同士が情報の共有できる様に勉強会を開催。新人教育の場も設けている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内や外部研修へ参加し学ぶ場を設けている。日頃から利用者の身体面の		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人研修や外部研修で生日の機会を設けているが引継ぎ後、今のところ必要な方はいない。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項や契約書を丁寧に説明している。また途中に疑問や質問の機会を設け納得いくまで説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来苑時や運営推進会議において要望や意見を頂戴したり、玄関にご意見箱を設置しすぐに反映させる手配を取っている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ソフト・ハード面、面談や会議で出た意見は場所長から各担当課長へまたは理事長へあげる体制ができている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己申告書をもとに面談を行い意見を交換しながら評価の機会を設けている。また長期に有給休暇の取得ほかの為の協力体制が出来ている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	性別や経験での採用は行っており、人柄を重視して面談を行っており、未経験でもバックアップ体制が出来ている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人研修を行い学びの場を設けている。接遇委員会が設置しており対応について実践に繋げている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	しっかり丁寧に教えるようにしており、人が育つことを考えている。教えるだけでなく、一緒に考え・一緒に答えを出すことで、その物を知ること为目标とし行っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修へ参加し他の施設の方と交流をしている。その後も情報交換のため連絡を取り合うこともある。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族が安心して納得することが出来る様幾度と話し合いの場を持つ。また本人の状況に応じて家族の力を借り解決することもある。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談に来られた時はしっかり耳を傾け、問題点や課題に解決できるアドバイスを行ったり、入居後の生活についても要望にそうようにしている。また話の中で他のサービスの話も行う。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話の内容から、どんなサービスが必要なのかアドバイスととも選択肢の一つとして提供している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	希望や悩みなど打明けられる信頼関係を築きストレスのない生活環境を提供する。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている			
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている			
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事やレクを通して交流の場を設け良好な関係が築けるよう援助を行っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば病院やサービスほか、出来る限りの支援に努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	快適な生活の確保のため、本人様に要望を聞いたり、困難な方へは職員や家族と話をし取り組んでいる。ケアプランにも反映されている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や日頃の会話の中、役割や趣味を把握したり、新たな物は記録に残し提供。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の表情やバイタルで状態を確認しながら一日の変化を確認しながら、出来ることを提供を行う。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成と居室担当三か月に1回モニタリングを行い、家族の意向、本人の希望をもとに話見直しを行っている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の変化を介護日誌やケア記録をもとにカンファレンスで見直しを検討。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズやその方が必要とするサービスに合わせた支援を行っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事や園児交流・ボラなどに参加し地域の方との関わりを設けている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院はあるが、無理に移行するようなことはしておらず。都度、連絡・相談の関係を築くようにしている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルや異変がある時は24時間看護へ連絡できる仕組みが出来ている。訪問看護や往診時変化がある方の相談も行っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	治療や状態を定期的に確認し早期退院に努めている。途中でも先生と話を出来る場を設けて頂くようお願いしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化終末期については入居時に説明している。全ての方ではないが、終末期の対応について要望を聞いている。また希望があれば看取りの対応を行う。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命法の研修を行っている。また場所での勉強会を行い急変時に備えている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年数回の避難訓練を行い地域の方の参加もして頂くようにしている。施設のことを知って頂くためボランティア活動を行っている。		
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇委員会が設置してある。日頃から言葉使いには気をつけ、尊厳を守り一人一人に合った対応をしている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を取り入れた声掛けを行い食べたい物や行きたいところなども聞き叶えている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や気分に合わせて本人のペースで生活支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や行事に応じた衣服を選べるように支援したり、訪問理美容を利用しておしゃれが出来るようにしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳作業で今日の料理も確認できるようにしている。2か月に1回おやつや食事作りを行い、刃物で物を切って頂くなどの支援をしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態や水分の状態を個々に合わせた物で提供。水分摂取が少ないと思われる方へは、チェック表や好みの物を考え提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	スポンジや歯間ブラシなどその方あった器具の使用を行っている。また必要に応じて手で口腔体操を行い誤嚥に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し誘導の声掛けや介入を行っている。職員間で情報共有しながら紙から布・布かわ紙、快適に過ご過ごすことを目標に対応している。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体調に気をつけながら水分量を増やしたり、運動等働きかけ自然なお通じに繋がっているが、薬剤の使用も錠剤・液体・座薬などその方に合ったものを使用。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	基本的な時間などは設定しているが、希望があれば入って頂いている。生活のリズムから時間外にも入って頂くこともある。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動や散歩・日光浴など量を考え安眠に繋げている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情をいつでも確認できるようにしており、薬をセットする際どんな薬か確認もできる。新しい物や変更時はノートや日報で確認できる。三段階のセットの確認で誤薬を防ぐ。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事も個別や・企画ものを月1回以上入れて提供好きな事や楽しみを持っていただいている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な買い物からドライブやお花見など外出支援している。要望があれば極力対応している。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で立替金を行い、管理面から利用者がお金を使用することは少ない。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればしやうが出来るようにしている。手紙については、促すことがある。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾りつけを行っている。一緒に作成したりして楽しみを持って頂いている。暖かい色を使用している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	状況を見ながら定期的に席の変更を行っている。居室へお誘いし静かな時間を過せるようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物や思い出の品を持参いただき自宅と同じ空間を作り対応している。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路には手すりを設置し転倒予防に努めている。トイレ・入浴施設では見える化し分かりやすくしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
			○	③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、活き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が
			○	②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない